

令和7年度 学 校 評 価 シート〈前期中間報告〉

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施予定 ●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施予定。保護者アンケート実施予定

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	成果と課題	改善策・向上策
〈学校教育目標〉 かしこく やさしく たくましく 〈めざす児童の姿〉 進んで学ぶ子 豊かな心をもつ子 たくましく生きる子	○授業づくり 45 分間 心と体をフル回転して取り組む授業 子どもの意識に沿った探究的な学びの充実	・学年で教材を共有したり進度の速い学級の授業を見たりして授業の展開を工夫することができた。 ・授業づくりを意識して取り組むことができた。目標にあるような授業、探究的な学びとは何か、という点を全体で共有したい。 ・学年会で教材研究や授業づくりに関して話し、授業をよくしようとすることができた。	・「4 5 分間心と体をフル回転して取り組む授業」ということを目指し今年度スタートした。1 学期に行った職員アンケートでは、およそ6 5 %がこのことを意識している結果となった。今後はさらに具体的にどのような授業をするのか、村瀬先生の研修や日頃の実践を通して考えていきたい。
	○集団づくり あいさつを通して安心して生活できる笑顔あふれる学校	・あいさつがより学校全体の目標となるような働きかけが必要。実践と振り返りが見えるようにしたい。	・あいさつの意義を確認する場を設ける。（集会など）定期的に振り返る場も設け、意識づけとなる活動を行う。全校の意識をそろえていきたい。
	○健康な心と体づくり 活発な外遊び	・さまざまな遊びをこのむ児童がおり、「外遊び」に限定した目標を設定するのは難しいと感じた。	・気温が高くなることで、外遊びも制限されてしまう。身体みがきを参考に、室内でもできる運動等を考えていき、また外遊びに限らずに運動する意識を高めていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	・1 学期職員アンケートでは、評価の観点と同じ質問事項の回答は、A 評価（十分に達成された）が昨年度と同じ2 7 . 8 %だった。 ・1 学期のスポーツデーでは、子どもたちは満足した様子だった。	・1 学期職員アンケートでは、昨年度つかなかった C 評価（やや達成されなかった）が1 1 %となった。児童アンケートでは、職員アンケートと同様に、昨年度と比べると大きく変わらなかったが、マイナスの評価がやや増えてきている。行事を通してどのような力をつけるのかなど、職員で共有していきたい。
		◇どの子も安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外の連携により個に応じた指導が行えたか	・1 学期職員アンケートの結果では、昨年度よりも教室環境への意識を高めている職員が増えた。	・引き続き、「どの子も安心して学べる教室」を目指していきたい。
	学習指導	◇ 聴き合う ／ 学び合う ことを通した協働的な学びの充実（授業づくり）	授業で、心と体をフル回転して取り組む課題設定（ジャンプの課題）ができたか	・1 学期職員アンケートでは、肯定的な評価がおよそ3 7 %となった。職員の意識が分かれている様子がある。	・お互いに授業を見合ったり紹介したりする中で、意識を高めていきたい。
			教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	・1 学期職員アンケートでは、昨年度の1 学期と比べると、C・D のマイナス評価がなくなった。	・児童アンケートの結果は、昨年度と大きく変わらなかったが、ややマイナスの評価が増えている。「子どもの声を聴く」という職員の意識をより高め、実際に丁寧に子どもの声に耳を傾けていきたい。
			友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	・1 学期職員アンケートでは、A 評価の割合は4 . 5 %増えたが、A・B のプラス評価がおよそ7 5 %で、昨年度より減った。D 評価はないが、C 評価が昨年度よりおよそ1 1 %増えている。	・児童アンケートでは、昨年度と比べて大きな差はなかった。日常的に対話的な学びを取り入れ、児童が「友の学ぶと理解が広がる」ことを実感できるようにしていきたい。
		◇体育学習の充実（健康な心と体づくり）	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	・1 学期職員アンケートでは、A 評価は9 . 6 %減ったが、A・B のプラス評価がおよそ7 9 %で、昨年度より1 1 . 8 %増えた。	・スポーツテストのアンケート結果や児童の様子を見ると、日常的に運動を親しむ児童とそうでない児童とで分かれていることが分かる。授業で運動に親しむ機会を大切にする。
	生活指導	◇あいさつの充実（集団づくり）	あいさつを充実するためのはたらきかけができたか	・児童会の当番活動に位置付けたことや、校長先生の毎朝の声掛けがあったことにより、意識が変わってきた児童が増えてきた。	・学校目標の変更を受けて実施した児童アンケートの質問「自分からすすんであいさつできたか」に対して、できた、という回答が8 8 %と多く見られた。一方で、否定的な回答をしたおよそ1 2 %の児童があいさつを進んでできるようにしていく必要がある。そのために、朝のあいさつ運動などを通して、自然なあいさつが交わされる雰囲気をつくること。教師自身が率先してあいさつをし、よいモデルとなることなどの取り組みを進めたい。

		◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	・職員アンケートの結果では、昨年度と大きな差はなく、およそ８１％の職員が人権教育の充実を意識していることが分かった。	・児童アンケートの結果では、「学級への安心感」に対する肯定的な回答は昨年度より３．９％増えているのに対し、「いじめがなくみんな仲良く生活できている」への肯定的な回答は７％ほど低くなっている。授業改善だけでなく、学級の日常場面での指導等を見直していきたい。
		◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	・６年生は、５年時に保育園の年長組との交流を経験しており、その学びを生かして、１年生と積極的に関わろうとする姿が見られる。自分から声をかけたり、相手の立場に立って行動したりする場面が見られることは、大きな成果である。	・相手意識を高める大切な活動として引き続き重視していきたい。日常的にペア学級との交流ができる雰囲気が出てきた。さらに、多くの学年で交流が行われるようになってきた。交流を通して、より相手意識をもつという視点を高めていきたい。
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	・「ふるさと」というとやや堅苦しい印象があるが、地域に出て学ぶ機会を、それぞれの学年でもつことができた。	・各学年でどんなことができるかを整理していくとともに、目的意識をもつことが充実につながると考えて実践していきたい。また、地域素材を積極的に学習に取り入れていきたい。
		◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	・クラブ活動に外部講師が来てくださることで、職員だけでは提供できない充実した活動ができている。大変ありがたい。	・２学期から取り組んでいる職員での検討プロジェクトの中に、地域連携のチームが立ち上がり、現在、地域連携について検討中である。現状把握から成果や課題を整理し、地域と学校が共に育つ連携体制を築いていきたい。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	・学年内で、進度が速い学級の授業を見て、課題のヒントを工夫したり足並みをそろえたりすることができた。	・学び合う授業研究会の低・高の参観は、講師の先生が回るだけでなく、職員同士も見合える機会になるとよい。気軽に見合うということはなかなか日頃難しい実態があるので、よりよい研修のあり方を探していきたい。 ・今後は、授業公開の機会を増やすなど、職員同士が学び合える仕組みを整えていきたい。